

稲美町 地域福祉計画

概要版



令和3(2021)年3月

稲美町

計画の概要

地域福祉とは？

高齢者や障がいのある人、子育て家庭、さまざまな事情から生きづらさを感じている人など、すべての住民一人ひとりの生活様式を大切にしながら、家族や友人・知人とのつながりを大切に、文化やスポーツ、芸術、趣味などの社会的な活動に参加していくことで、誰もが自分らしく、誇りをもって、地域の一員として安心していきいきと暮らすことができる福祉のまちづくりの実現が、「地域福祉」です。

計画策定の背景

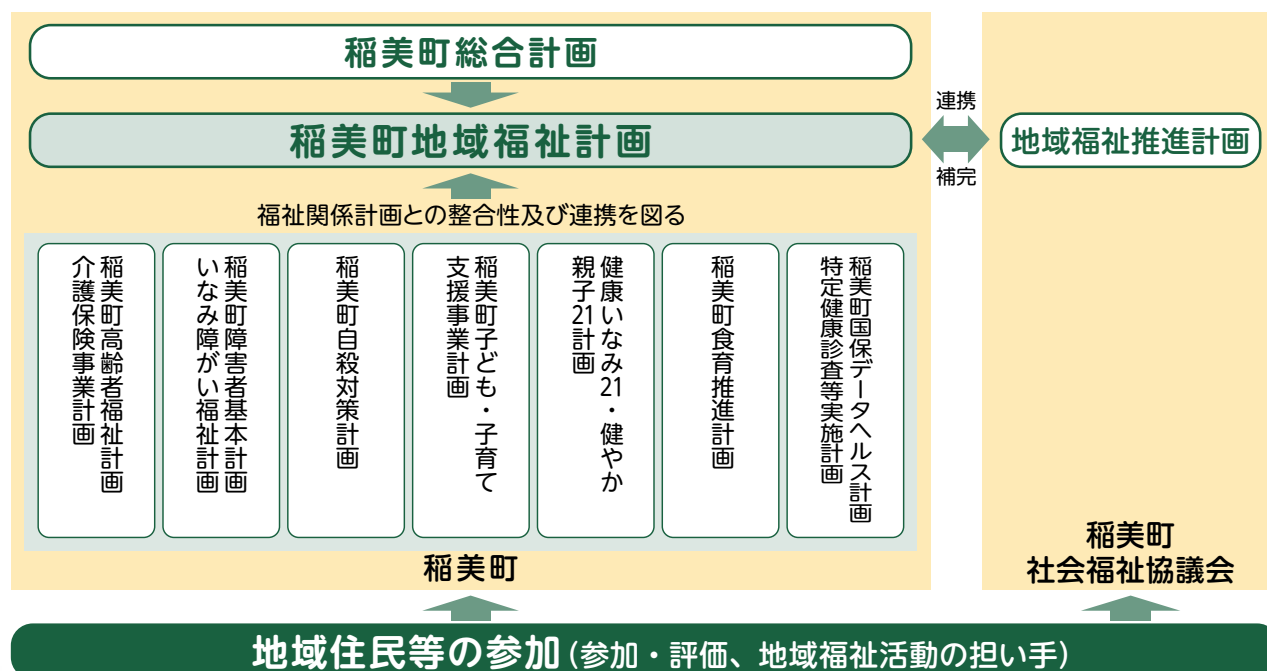
これからの福祉のあり方として、行政だけが推進していくのではなく、多様な地域生活課題に対して、地域住民が主体となって参加するとともに、専門職、親族や友人、福祉活動を担う人、ボランティア、民生委員・児童委員、NPO、事業者等、関係者が地域での新たなネットワークを形成して、それぞれの役割、特長を活かしながら、地域住民のもつ課題の解決、またその発生の予防に向けて、相互に連携・協力して取り組んでいくことが求められています。

本計画は、分野別の福祉計画を内包する計画として位置付け、地域福祉に関わる取り組みの実施状況や社会経済情勢、住民のニーズなどを踏まえつつ、地域福祉の基本的な方向性について明らかにしていくものとして策定するものです。

計画の性格

本計画は、社会福祉法第107条（令和3（2021）年4月1日施行）に規定する市町村地域福祉計画として位置づけられ、稲美町総合計画を上位計画とし、地域福祉を推進するための目標を定め、取り組みを体系化する基本計画としての性格を持つものです。

計画期間は、令和3（2021）年度を初年度とし、令和7（2025）年度までの5年間とします。



計画の基本的な考え方

基本理念

みんなでつくる 誰もが安心して暮らせる地域共生社会

地域福祉活動は、行政だけが進めても、地域に密着したきめ細かな福祉サービスを住民に提供することはできません。住民一人ひとりがお互いを尊重し、理解し、相互に助け合うことのできる地域社会を実現していくことが重要となります。行政と住民が協働し、子どもから高齢者まですべての人々が支え合い、助け合えるまちづくりを進めていきます。



| | | |
|----------------|-----------|--|
| 地域住民一人ひとりの取り組み | | 地域に暮らす一人ひとりが、いつまでも自分らしく地域で暮らすための予防的福祉の取り組み |
| 住民同士や事業者等の取り組み | 住民同士の取り組み | 地域組織や、ボランティア等地域で助け、助けられる関係づくりの取り組み |
| | 事業者等の取り組み | 社会福祉事業者、NPO、企業等の資源を地域の暮らしに活かす取り組み |
| 行政の取り組み | | 地域福祉活動の支援と包括的支援体制づくりの取り組み |

稲美町の地域福祉を取り巻く課題



施策の体系

| 基本理念 | 基本目標 | 基本方針 |
|--------------------------------------|------------------------------------|--|
| <p>みんなでつくる 誰もが安心して暮らせる地域共生社会</p> | 基本目標 1 福祉を担う 人づくり | (1) 支え合う意識の高揚 (2) 福祉活動への理解・参加の促進 (3) 福祉の人材育成・確保 (4) 地域福祉活動の担い手づくり |
| | 基本目標 2 互いに支え合う 仕組みづくり | (1) 相談体制の整備 (2) 情報提供体制の整備 (3) ニーズに応じたサービスの提供 (4) 地域活動団体への支援 (5) 支援が必要な人への対応 (6) 生活困窮者への対応 |
| | 基本目標 3 安心できる 環境づくり | (1) 人にやさしいまちづくり (2) 安心・安全なまちづくり (3) 要配慮者への支援の充実 |



基本目標 1 福祉を担う人づくり

地域にはさまざまな人が多様性を持ちながら暮らしています。人と人との交流を通じた住民同士の良好な関係の構築に向けて、地域を知り、福祉活動に参加するとともに、多様性への理解を深め、認め合いながら、お互いが支え合う地域となるよう、福祉の意識を高めていく取り組みを進めます。

(1) 支え合う意識の高揚

地域の問題発生の予防に向けて住民同士で協力しあうことができるよう、交流の場づくりの支援を行うとともに、あらゆる媒体や機会を通じて、わかりやすい情報提供に努めます。

住民一人ひとりや事業者等に取り組んでほしいこと

- 心のバリアフリーを実践するように努めましょう。
- 高齢者や障がいのある人への理解を深めましょう。
- 虐待やその可能性のある事例を見たり聞いたりしたら、迷わず行政や関係機関に通報・相談しましょう。
- 各事業において世代間の交流を積極的に進めましょう。

(2) 福祉活動への理解・参加の促進

各種団体等の活動を支援し、町全体の地域福祉活動の活性化を図るとともに、活動に関する情報提供を行います。



住民一人ひとりや事業者等に取り組んでほしいこと

- 地域のことに関心を持ちましょう。
- 地域の行事に参加して、できるだけ多くの人と顔見知りになるようにしましょう。
- 地域福祉を推進するため、自分の持つ知識や技術を活用しましょう。

(3) 福祉の人材育成・確保

子どもたちを対象にした講座や勉強会などを開催して啓発を行うとともに、各種講座や講演会などを開催し、住民一人ひとりの福祉に対する理解を深めます。



住民一人ひとりや事業者等に取り組んでほしいこと

- 家族で地域の福祉活動に参加しましょう。
- 一人ひとりが、福祉の問題を自分自身のこととして捉えましょう。
- 地域の福祉施設の見学や各種講座に積極的に参加して福祉の知識を身につけましょう。
- 地域のサークルや団体同士で積極的に交流を図りましょう。

(4) 地域福祉活動の担い手づくり

地域の実情に合った地域活動を展開できる人材の育成、活動内容等の情報発信に努めます。

また、社会福祉協議会が地域福祉活動推進の核として機能するよう支援・連携します。

住民一人ひとりや事業者等に取り組んでほしいこと

- 地域の活動に参加、協力しましょう。
- 福祉学習の場へ積極的に参加しましょう。
- 各種広報やホームページなどを利用して、活動に必要な情報を入手しましょう。
- 活動することの大切さや楽しさ、喜びを積極的にPRして、参加を呼びかけましょう。

基本目標 2 互いに支え合う仕組みづくり

地域の中で安定した暮らしができるよう、身近な地域で相談できる窓口の充実や相談を受ける側の資質向上などに努めながら誰もが気軽に相談できる体制づくりを進めます。また、情報提供の内容や手段などを工夫しながら、必要な情報が容易に入手できる環境づくりを進めます。

また、適切なサービスが提供されているか検証や評価を行いながら、ニーズを把握して、適切なサービスを提供していきます。

(1) 相談体制の整備

相談場所等について広く周知し、気軽に相談できる体制をつくります。

また、総合的な相談支援体制の構築に向けて、既存の相談機関の連携を強化します。



住民一人ひとりや事業者等に取り組んでほしいこと

- 問題を抱えこまず、積極的に相談しましょう。
- 支援が必要な人を地域の中で見守り、必要に応じて関係機関へ連絡・相談をしましょう。
- 地域にある身近な相談先として、地域で協力し相談活動に取り組みましょう。

(2) 情報提供体制の整備

広報紙、ホームページ、冊子、パンフレット、自治会回覧など、さまざまな手段で、わかりやすく情報を提供します。

また、視覚・聴覚障がいに応じた方法による情報提供に努めます。

住民一人ひとりや事業者等に取り組んでほしいこと

- 広報紙や回覧板などをよく読み、関心を持って情報を得るようにしましょう。
- 地域の施設や団体等も、機関紙を発行するなど情報を提供しましょう。

(3) ニーズに応じたサービスの提供

地域住民の声を聴く場づくりの支援を進め、ニーズに合った適切なサービスの提供に努めます。



住民一人ひとりや事業者等に取り組んでほしいこと

- ひとり暮らし高齢者などの「ちょっとしたこと・変化」に気を配りましょう。
- 隣近所の声かけや見守り活動によりニーズを見つけ、地域で手助けしましょう。

(4) 地域活動団体への支援

社会福祉協議会や事業者、ボランティア団体、自治会など、地域福祉に関係する団体が連携して活動できるよう、団体間の情報交換や交流機会の充実に努めます。

住民一人ひとりや事業者等に取り組んでほしいこと

- 団体の活動内容や状況について理解を深めましょう。
- 日常的な支援や災害時の救助方法について、機会を捉えて団体と話し合いましょう。
- 団体同士の会合など情報交換の場を設けて協力体制を整えましょう。



(5) 支援が必要な人への対応

福祉施設、各種相談機関、民生委員・児童委員、学校、医療機関等の地域のさまざまな社会資源と相談窓口との連携を強化し、ネットワークの充実に努めます。

住民一人ひとりや事業者等に取り組んでほしいこと

- 声かけ、見守り活動により、支援が必要な人の異変を早期に発見しましょう。
- 異変や問題を発見したら、小さなことでも迷わず関係機関に連絡・相談しましょう。

(6) 生活困窮者への対応

相談に来た人の状況を適切に把握し、ふさわしいサービスの提供や支援ができるよう、庁内関係部署や関係機関と連携します。



住民一人ひとりや事業者等に取り組んでほしいこと

- 地域の人同士で気づき合える「顔の見える関係」をつくり、地域で孤立しがちな人に気を配りましょう。
- 自治会長や民生委員・児童委員等、地域の組織や団体の連携・情報の共有化を図り、支援を行いましょう。

基本目標 3 安心できる環境づくり

誰もが住みやすい安心・安全な地域となるよう、災害への備えと防犯に結びつく取り組みを支援するとともに、自分以外の人のことを考えるちょっとした気配りや思いやりの大切さを普及し、困っている人がいたら自然に手を貸すことができるような、人にやさしいまちの実現に努めます。

(1) 人にやさしいまちづくり

公共施設のユニバーサルデザイン化に努めるとともに、施設を新設する場合には、高齢者や障がいのある人への対応を推進します。



住民一人ひとりや事業者等に取り組んでほしいこと

- 困っている高齢者や障がいのある人などを見かけたら、積極的に手助けしましょう。
- 地域でイベントを開催する時には、誰もが気軽に参加できるように考えましょう。

(2) 安心・安全なまちづくり

自主防災組織、福祉施設、事業者等に防災訓練の実施を呼びかけるとともに、広報紙やホームページ等により防災・防犯意識の啓発に努めます。

住民一人ひとりや事業者等に取り組んでほしいこと

- 自分たちの地域は自分たちで守るという意識を持ち、自主防災活動や防災訓練に積極的に参加しましょう。
- 災害に備え、地域内の危険な場所を確認しましょう。

(3) 要配慮者への支援の充実

避難行動要支援者支援制度について、災害時の情報伝達、安否確認、避難支援に活用します。

また、支援を必要とする人の把握に努めます。

住民一人ひとりや事業者等に取り組んでほしいこと

- 日頃から地域の高齢者や子どもたちを見守りましょう。
- 地域では、避難が困難な高齢者や障がいのある人のために避難経路の確認、避難所への誘導など、緊急時に取るべき行動を確認しましょう。

計画の推進に向けて

- 広報紙やホームページなどを活用して住民への周知を図ります。
- 民生委員・児童委員などに具体的な活動事例などを紹介し、理解と協力を求めています。
- 住民・地域組織、福祉サービス事業者、社会福祉協議会及び行政が、それぞれの取り組みを認識し、施策を展開する中で連携し、協働して進めます。
- 意識調査や地域福祉活動関係者との意見交換会などを適宜行い、地域福祉活動に関する住民の意識や活動実態、感染症の拡大による地域生活課題への影響の把握に努めます。
- 今後の進行管理に向けては、住民の声を反映して検証するとともに、新型コロナウイルス感染症を含めた社会情勢に合わせながら柔軟に進めていきます。



稲美町地域福祉計画《概要版》 令和3(2021)年3月発行

■発行: 稲美町 地域福祉課

〒675-1115 兵庫県加古郡稲美町国岡1丁目1番地

電話: 079-492-9136 (直通) / FAX: 079-492-8030